

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 社会科)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校社会科における教科目標、評価の観点とその趣旨について
- 3 小学校社会科における学習評価の進め方
- 4 小学校社会科における学習評価事例
- 5 小学校社会科における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の関わっている最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落としがないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・ <u>表現</u> 」
「技能・ <u>表現</u> 」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

小学校 社会科における教科目標、評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

→下線部が「民主的、平和的な」から「平和で民主的な」へと改められました。その趣旨は従来通りです。※下線は、教育センターによる。

2 評価の観点及びその趣旨

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

これまでと変わったところは？

- 「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」が「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」に整理されています。



3 学年別の評価の観点を趣旨

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
第3学年及び4学年	地域における社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の <u>社会的事象の特色や相互の関連など</u> について思考・判断したことを適切に表現している。	地域における <u>社会的事象</u> を的確に観察、調査したり、 <u>地図や各種の具体的資料</u> を活用したりして、 <u>必要な情報を集めて読み取ったりまとめたり</u> している。	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。

第5学年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、 <u>社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。</u>	我が国の国土と産業の様子に関する <u>社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。</u>	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。
第6学年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心をもち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、 <u>社会的事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを適切に表現している。</u>	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する <u>社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。</u>	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

※太文字や下線は、発達の段階を踏まえた指導や評価を行う際の留意点。教育センターによる。

小学校社会科における学習評価の進め方

評価規準は、どうやって設定するの？

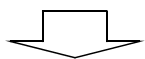
評価規準の設定にあたっては、各学校において、題材に合う評価規準の設定例を国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）を基に、必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり、いくつかの設定例を参考にして設定したりするなどの工夫が大切です。なお、参考資料では、以下のように学習指導要領の記述形式を踏まえて設定されています。

学習指導要領の記述形式

A（社会的事象）について、次のこと（ア、イ、ウ…）を **B**（学習の仕方）して調べ、
C（社会的事象の意味、特色、相互の関連など）を考えるようにする。

※次のこと→（ア 調べる対象）（イ 調べる対象）（ウ 調べる対象）





事例における評価規準設定の基本形

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・ A に関心をもち、それを意欲的に調べている。	・ A について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	・ B して、 A について必要な情報を集め、読み取っている。	・ (ア, イ, ウ) を理解している。
・ よりよい社会を考えようとしている。 ※各学年の態度に関する目標を踏まえた具体的な姿。	・ ○と○とを（比較、関連付け、総合など）して、 C を考え適切に表現している。	・ 調べたことを（地図、図表、レポートなど）にまとめている。	・ C を理解している。

例えば、中学年の内容(3)については、学習指導要領では次のように示されています。評価規準の設定例の記述を基にして、評価規準を設定するとあとの表のようになります。

- (3) **A** 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理 について、次のことを **B** 見学、調査したり資料を活用したり して調べ、**C** これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な環境の維持と向上に役立っていること を考えるようにする。
- ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり
イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること



評価規準設定例（小単元で「ごみの処理」を選択した場合）

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・ <u>ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち、それを意欲的に調べている。</u>	・ <u>ごみの処理にかかわる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</u>	・ <u>ごみ処理の仕組みや施設などを観点に基づいて見学、調査したり、地図や統計などの資料を活用したりして、ごみの処理にかかわる対策や事業について必要な情報を集め、読み取っている。</u>	・ <u>廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを理解している。</u>
・ <u>地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用などの取り組みについて考えようとしている。</u>	・ <u>ごみの処理にかかわる対策や事業と自分たちの生活とを関連付けて、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持に役立っていることを考え適切に表現している。</u>	・ 調べたことを白地図や新聞などにまとめている。	・ <u>ごみの処理にかかわる対策や事業は計画的、協力的に進められていることを理解している。</u>
			・ <u>ごみの処理にかかわる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</u>

※下線は、学習指導要領の記述を基にした部分。教育センターによる。

各観点の評価方法は？



☆【社会的事象への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

児童が学習内容に関心をもち、調査や作業、話し合いなどの学習活動に自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかの学習状況进行评估するものです。また、学習して身に付けた見方や考え方などを社会生活の中でどのように生かそうとしているのか、社会の形成にどのように関わろうとしているのかについても評価していく必要があります。

→ 例えば、活動の様子の観察、発言の内容、ワークシートの記述の内容（作業状況や学習後の感想）等で評価することができます。具体的には、「意欲的に調べようとしているのか」、「社会的事象の特色やよさを考えようとしているのか」、「社会的事象に対する思いや願い」などが考えられます。

☆【社会的な思考・判断・表現】は、どうやって評価するの？

社会的事象から学習問題を見いだして追究し、事象の特色や相互の関連、意味などについて思考・判断したことを適切に表現しているかどうかを評価するものです。説明や論述、話し合いなどの言語活動を中心として評価することが求められています。その際、思考・判断した結果としての表現の内容だけでなく、思考・判断の過程についても評価していく必要があります。

→ 例えば、発言の内容、ワークシートの記述の内容等で評価することができます。

☆【観察・資料活用の技能】は、どうやって評価するの？

社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめているかを評価するものです。資料を基にして、グラフや地図に表したり、新聞などにまとめたりしたことをこれまで同様に評価する必要があります。

→ 例えば、活動の様子の観察（評価事例1、2参考）、ワークシートや作品の記述の内容等で評価することができます。

☆【社会的事象についての知識・理解】は、どうやって評価するの？

社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連などの習得すべき知識や重要な概念を理解しているかどうかを評価するものです。身に付けさせるべき知識や概念は何かについて、学習指導要領を基にそれぞれの単元や取り上げる事例に応じて、明確にしておく必要があります。

→ 例えば、発言の内容、ワークシートの記述の内容、単元末のペーパーテスト等で評価することができます。

小学校社会科における学習評価事例 1

■ 単元全体を通した学習評価の進め方が分かる事例

事例1の単元では、8時間の学習計画を立て、バランスよく観点別評価を行うことの例を示しています。1単位時間に1つ～2つの評価規準を設定するのが適当となっていますので、ここでは1単位時間に1つの評価規準を設定しました。また、1単位時間ごとの評価規準については、単元の評価規準と学習内容を踏まえながら設定しています。

1 単元名 わたしたちの暮らしと食料生産 【第5学年 内容（2）】

2 単元目標

食料生産に携わる人々の仕事の内容や思いについて考えさせることを通して、食料生産の仕事が自分たちの暮らしを支えていることを理解させ、現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりすることができるようにする。



3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的な事象についての 知識・理解
①我が国の食料生産について関心をもち、それを意欲的に調べている。 ②我が国のこれからの食料生産の在り方について考えようとしている。	①我が国の食料生産について、学習問題や予想を考え表現している。 ②調べたことと食料自給率の問題を相互に関連付け、我が国のこれからの食料生産の在り方について考え適切に表現している。	①資料やインターネットを活用して、我が国の食料生産について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを整理して白地図などにまとめている。	①食料生産に携わっている人々の努力や工夫、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。 ②我が国の農業や水産業は、国民の食料を確保する重要な働きを果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解している。

4 単元の指導と評価の計画（8時間）

○指導のねらい ・学習活動	評価規準	評価の方法の具体とその進め方
第1時 ○ 我が国の食料生産について関心や疑問をもつ。 ・ 献立表や広告から気付いたことを発表する。 ・ 米づくりや水産業の様子について学習したことを想起する。	献立表や広告、既習内容を基にしながら、日本の食料生産のさかんなところやその特徴について関心をもち、意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度①】	行動観察，発言，ワークシートの記述 献立表や広告などを見ての気づきや我が国の食料生産への関心，調べることへの意欲を活動の様子を観察と発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第2時 ○ くだものづくりのさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。 ・ リンゴとみかんの生産の多い都道府県を白地図上にまとめる。 ・ みかんの生産量の変化の資料から、外国との関係に気付く。	リンゴとみかんの生産の多い都道府県を白地図上にまとめ、その特徴を南北などの位置や気温の違いから読み取っている。 【技能②】	行動観察，発言，ワークシートの記述 くだものづくりのさかんな地域について調べたことを白地図に整理したり、資料から必要な情報を読み取ったりして特徴をまとめているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。

第3時 ○ 野菜づくりのさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。 ・野菜の生産の多い都道府県を白地図にまとめる。 ・野菜づくりがさかんな理由を「地形」「気候」「位置」の視点から考える。	野菜の生産の多い都道府県の特徴や野菜づくりに携わる人々の工夫や努力を「地形」「気候」「位置」の3つの視点から総合して考え、適切に表現している。 【思考・判断・表現①】	発言，ワークシートの記述 野菜づくりのさかんな地域について調べたことを基にして、生産者の願いや意図と3つの視点を関連づけて考えているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第4時 ○ 畜産業のさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。 ・牛や豚、にわたりの生産の多い都道府県を白地図にまとめる。 ・新聞記事を基に、食の安全性の問題に気付く。	牛や豚、にわたりの生産の多い都道府県を白地図上にまとめ、その特徴を南北などの位置や土地の様子の違いから読み取っている。 【技能②】	行動観察，発言，ワークシートの記述 畜産業のさかんな地域について調べたことを白地図に整理したり、資料から必要な情報を読み取ったりして特徴をまとめているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第5時 ○ 主な食料の輸入先や主な国の食料自給率のグラフから問題に気付く。 ・教師が提示した資料を見たり、ゲストティチャーの話を聞いたりする。	食料生産に携わっている人々の工夫や努力、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。 【知識・理解①，②】	発言，ワークシートの記述 我が国の食料生産の特徴や自給率の問題について理解することができたか発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第6時・7時 ○ 食料自給率についての資料を基に、自分なりの考えをまとめる。 ・図書やインターネットなどを使って調査活動をする。 ・「日本は食料自給率をあげるべきか、維持するべきか」自分の考えをもつ。	図書やインターネットを活用して、我が国の食料自給率について必要な情報を集め、読み取っている。 【技能①】 資料を基にして、我が国のこれからの食料生産の在り方について、自分なりの考えをもとうとしている 【関心・意欲・態度②】	行動観察，ワークシートの記述 図書やインターネットから我が国の食料自給率の問題についての資料を集めているか活動の様子との観察とワークシートの記述内容から評価する。 ワークシートの記述 日本は食料自給率をあげるべきか、維持するべきかについて自分の考えをもとうとしているかをワークシートの記述内容から評価する。
第8時 ○ これからの食料自給の在り方について話合う。 ・同じ考えをもつ友達と意見交換をする。 ・学級全体で話し合い、自分の考えをまとめる。	調べたことと食料自給率の問題を相互に関連付け、我が国のこれからの食料生産の在り方について考え、適切に表現している。 【思考・判断・表現②】	発言，ワークシートの記述 話し合ったことを基に、それぞれの良い点と問題点を踏まえた上で、自分の考えを適切に表現しているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。

小学校社会科における学習評価事例 2

- 1 単位時間の中で、指導に生かす評価と、通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価の違いが分かる事例

単元名 新しい国づくりはどう進められたの 【第6学年 内容(1)キ】

1 本時の目標

- 明治時代になって欧米の文化が広く取り入れられ、人々の生活が大きく変化したことについてまとめることができるようにする。

2 本時に位置付けた評価規準

- 資料を基にして、人々の生活の変化を整理し、その特徴をまとめている。【観察・資料活用の技能】

3 本時の指導と評価の計画



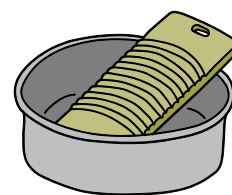
主な学習活動	評価方法の具体とその進め方
1 江戸時代の生活の様子と明治時代の生活の比較し、違いに気付く。	【資料から必要な情報を読み取ることについての評価とそれに基づく適切な評価を行い、学習活動3において少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)と判断できるようにする。】 発言、ワークシートの記述 江戸時代の生活の様子を表した絵と明治時代の生活の様子を表した絵を比較させ、どんなところが違うのか(変わっているのか)について読み取ることができたかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。違いとして見つけたところに印をつけたり、「江戸時代は・・・だけど、明治時代は・・・」など分かりやすく説明したりしているものを紹介するなどして、評価したことを指導に生かす。 (★「○○は明治時代になって何になっているか」と具体的に問い掛け、支援する。) ここでの評価は、指導のための評価であり、記録に残す必要はない。
2 教科書や資料集を基にして、明治時代になっての人々の生活の変化についてまとめ、発表する。	【資料を効果的に活用してまとめることについての評価とそれに基づく適切な評価を行い、学習活動3において少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)と判断できるようにする。】 行動観察、ワークシートの記述 教科書や資料集から調べたことを基に、欧米の文化が広く生活の中に取り入れられたことを自分なりに整理してまとめているのかを活動の様子の観察やワークシートの記述の内容から評価する。「衣」「食」「住」「教育」など観点ごとに整理したり、年表を使いながら整理したりしながら分かりやすくまとめているものを紹介するなどして、評価したことを指導に生かす。 (★似ているものや同じ仲間になりそうなものはないか問い掛け、支援する。) ここでの評価は、指導のための評価であり、記録に残す必要はない。
3 文明開化について、調べたことを基にしてまとめる。	ワークシートの記述 調べたことを基にして、観点や具体例を挙げながら欧米の文化が広く生活の中に取り入れられたことに触れているかをワークシートの記述の内容から評価する。 ○「おおむね満足できる」状況(B)と判断するめやすを以下の2つの条件を満たしていることとした。 ・ 観点や具体例を挙げながら生活の中で変化したことを整理していること。 ・ 欧米の文化が生活の中に取り入れられたことに触れて、文明開化についてまとめていること。 ここでの評価は、通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので、確実に記録に残す。

※ 表の中の★は、努力を要する児童に対する具体的な手立てを示している。

小学校社会科における学習評価事例 3

■ 「社会的な思考・判断・表現」の評価の進め方が分かる事例

中学年において、「昔の道具」の単元において、道具の変化について調べたことを基に、人々のくらしの移り変わりや道具の変化がもたらした影響について考え、表現する学習を展開する場合の評価方法について示します。



単元名 昔の道具【中学年 内容（５）ア】

本単元は、10時間単元です。主な単元の流れは以下の通りです。

第1次（1～4時）…洗濯の道具の移り変わりについて体験活動したり、まとめたりする。

第2次（5～8時）…グループごとにテーマを決め、昔と今の道具について調べたり発表したりする。

第3次（9～10時）…これまでの学習を振り返り、人々の生活の移り変わりや道具の変化がもたらした影響について考える。

本時である10時目は、9時目にまとめた昔と今の道具の共通点と相違点を基に、道具の変化が人々の生活にどのような影響を与えたかについて考えることができるようにする展開案です。

1 本時の目標

- 道具の変化が人々の生活にどのような影響を与えたかについて考えることができる。

2 本時に位置付ける評価規準

- 道具の変化と人々の生活の変化を関連付け、道具の変化が生活に与えた影響について考え適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

3 本時の指導と評価のポイント

主な学習活動	評価方法の具体とポイント（○）
1 前時の学習を想起する。 2 昔と今の道具の良い点と困る点について整理する。 3 昔と今の道具どちらが優れているか話し合う。 4 道具の変化が人々の生活に与えた影響について考え、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシートの記述 学習活動2、3の中で見出された「時間」「環境」「お金」「便利」「労力」「安全」などの観点を基にして、道具の変化が人々の生活に与えた影響について気付いているか、昔と今を比較しながら適切に表現しているかどうかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。 ○話し合いの中での発言内容だけですべての児童を評価することは難しいため、発言内容とワークシートの記述内容とを組み合わせる評価することが大切である。その際、発言内容では「おおむね満足できる状況」（B）と評価していたが、ワークシートの記述内容を評価することで「十分満足できる状況」（A）と最終的に評価することもある。 ○学習活動4においては、「道具の変化によって人々のくらしに

	どのようなよいことや困ることが起こったでしょうか」等，ねらいに即した的確な発問をすることが大切である ○「おおむね満足できる」状況(B)と判断するめやすを以下の内容が両方とも表現されていることとした。 ・昔の道具と今の道具について1つの観点を基に，比較しながら考えている。 ・道具の変化が人々の暮らしに与えた影響を考えている (児童のワークシート記述例b児) なお，「複数の観点を挙げながら比較して考えている表現」や「人々の暮らしに与えた影響を具体的に考えている表現」が見られる場合には，「十分満足できる」状況(A)と判断した。 (児童のワークシート記述例a児)
--	---

(児童のワークシート記述例)

b児

例えば，照明の道具では，昔は火を使っていたので，火事の心配があった。でも，今では，安心してらせるようになった。

b児は，昔と今の道具について，「安全」の観点を挙げながら比較し，今の人々の生活に与えたよさをまとめて記述できているので，「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。



a児

例えば，お米をたく道具では，昔は時間がかかりその場から離れられなかったけど，今ではスイッチを押すだけで決めた時刻にできるので，その間は別のことができるようになった。

a児は，昔と今の道具について，「時間」や「便利」の観点を挙げながら比較し，今の人々の生活に与えたよさをまとめて記述できているので，「十分満足できる」状況(A)と判断した。

小学校社会科における学習評価の進め方Q&A

Q1 「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点は，発言や挙手の回数，忘れ物の回数などで評価してもよいでしょうか？

A1 それらは学習態度であり，学習指導においては大切なことではありますが，それに偏った評価をすべきではないと考えます。「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点では，学習の対象となる社会的事象に対しての関心や意欲，態度を評価します。したがって，教師は単元を構成する際に，本単元で学習の対象となる社会的事象は何なのかということを明確にしておく必要があります。評価方法としては，児童の活動の様子や発言の内容で評価することが考えられます。しかし，それだけ

では全ての児童を評価することが難しいことも考えられますので、単元の中で意図的に感想や疑問などを記述させる場面を設定し、その記述内容を参考にすることも有効です。これらの方法を組み合わせながら、単元全体を通して長いスパンで多面的に評価することが大切です。

Q 2 「観察・資料活用の技能・表現」の観点が「観察・資料活用の技能」と変更されましたが、これからどのように評価したらよいのでしょうか？

A 2 中央教育審議会の児童生徒の学習評価の在り方について(報告)では、教科によって違いがあることを前置きした上で、基本的には現在の「技能・表現」で評価している内容は、今後も「技能」で評価することが適当であることが示されています。つまり、「観察・資料活用の技能」になりましたが、評価の方法や内容については、これまで通りと考えることができます。

この観点では、観察や調査を行う際に学習問題に即して観点や質問事項を決めて、詳しく見たり聞いたりする技能、また、資料を基に情報を集めたり、読み取ったり、それをまとめる技能を評価します。「小学校学習指導要領解説社会編（p 20, p 50, p 72～73参照）」には、「社会的事象を観察・調査すること」と「資料を効果的に活用すること」について、児童の発達の段階を踏まえた育てたい技能について具体的に示してあります。そこで、それらを基に見学や調査、新聞などの作品づくりを通して、どのような技能を評価するのかを明確にした上で、「どのような資料を集め」「何を読み取り」「どのように整理してまとめているか」などを評価していくことが大切です。

Q 3 「社会的な思考力・判断力・表現力」は、どのように評価したらよいのでしょうか？

A 3 児童が学習の対象となる社会的事象に対して、思考・判断したことを「話す」「書く」といった言語活動を通して表現される内容について評価をします。具体的には、「何を根拠としているのか」、「どのように表現しているか」などが考えられます。どの程度の表現内容を「おおむね満足できる」状況(B)と判断するのか、「十分満足できる」状況(A)と判断するのかを、「かかわる立場」や「社会的な価値」の内容、論理性などを基にして決めておき、評価することが大切です。そのためには、教師が事前に期待する児童の発言やワークシートの記述内容を想定して、「おおむね満足できる」状況と「十分満足できる」状況を具体的に考えておく必要があります。

評価の実際については、事例3を参照してください。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>